

奪われた命 忘れないで

近鉄奈良駅前 犯罪被害者 パネル展示



事件、事故で亡くなった犠牲者の等身大パネルが並ぶ会場（奈良市で）

犯罪被害者週間（25日～12月1日）を前に、事件や事故などで理不尽に命を奪われた犠牲者の等身大パネルを展示し、命の大切さを訴える「生命のメッセージ展」が10日、奈良市の近鉄奈良

駅前で始まった。13日まで。会場には、交通事故や集団リンチなどで亡くなった30人のパネルが立ち、そばには本人の写真と生前に履いていた靴が一緒に並べられている。パネルの胸元に

は、「我が子を亡くした悲しみは癒えることはない」「結婚してくれてありがとう。家族を作ってくれてありがとう」という遺族のメッセージも添えられている。

20年前にトラックにはねられて亡くなった奈良高専生・児島健仁さん（当時18歳）のパネルもあり、母親の早苗さん（70）は「展示を通して、自分や家族の命を守るために何ができるかを考えるきっかけにしてほしい」と話していた。

午前11時～午後3時。24～27日には香芝市ふたかみ文化センターでも開催。問い合わせは、県警犯罪被害者支援室（0742・23・0110）。